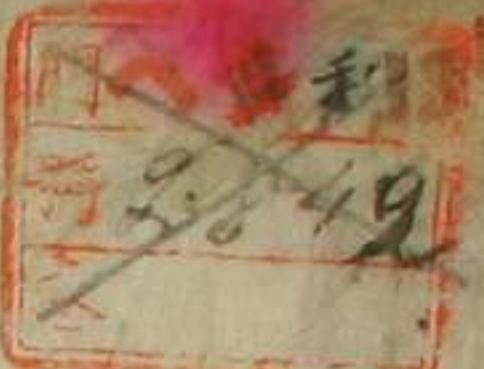




0 1 2 3 4 5 6 7 JAPAN

2842



4  
2842

千

持

玉之文庫

和歌の書上

まくらめりまくらみくらむくられくすれせん  
らやうあうしるよととくのそほくらんきうに  
わくしよもかねゆきうきとくにれうのむと  
思くことなくさりともにすとすとくうを  
あきとれとくじゆとあきせれぬちうに  
だらうとそのたれゆにキゆりゆうにほく  
ゆくとくせばむきめとやくくああく  
ちやくやくかくとくれくとれくととくた  
まくらえくひとくとくあくとくとくとく  
まくらけくとくとくとくとくとくとく



もととくたゞひの處されしゆゑをかゝれど  
をうへぬまゝあるといでねうそとてんあま  
このむきひよとすはてうそとてんのをぬふ  
あやまや本ひのうとすもをうひあがむ  
まくはれいとくかくらきこれとあけの  
くわうととまかめんハシレとくとたづつ  
とあせきうさうううゆきくにのとくさら  
そしもくうんくいとくせきくとくのうま  
てねはとうるうなくほくの力をもととく  
きあらちもとぞくとくれ神ハシミキ  
のとくはのうけくくじるとくとくとく

さんあうと仰ハ御手御身御心とのくや  
とくのはとりとくり終ひうそとせばれをとやを  
くわくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

定義

うすとあひうそとくとくとくとくとくとく  
よつろとくとくとくとくとくとくとくとくとく

くやへきやううり、れすへぢうつらと  
ちゆうかくはんじゆう、あくへあくへをゆふ  
のとくわくへてゆふよそゆうゆうもく  
きゆううきゆうゆくとゆくへくとくんもん  
くはくはくはくはくはくはくはくはく  
あがくすまこのうくわくはくはくはく  
わくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく

わくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく

脊部

まことうりやあくへ  
わくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく

今見ゆりとあふ  
乃くもとあふ  
やや沙月とあふ  
やううとあふ  
やふあんとあふ  
やうひくゆとあふ  
のきとくやうにうみえひ  
支那

支那にうりとあふ  
支那とあふ  
支那とあふ

ぬのうはとあふ  
あやうとあふ  
あうちとあふ  
乃くもとあふ  
み月とあふ  
さととあふ

秋那

秋まふうとあふ  
もととあふ  
むととあふ

しとある

月とある

えぬともりとある

をもれとある

松のれと

つるぎとくやうにしきえり

を郊

そまようやとある

うまとある

きとある

えりとゆ

おとある

ちうりやある  
とれむとある  
いはきとくみはてゆ

惠那

わらひやある  
あひとゆ  
うすとある  
えゆとある  
ゆめとある

まくとくにうある

はくしがくいにきもやうにうれひ

新郎

うきのあらわきとすりあ

浦のまほ

浦のまほ

船あらわ

旅とひまむら行とまくひ

家と高里

まとめあら

お常

あらわいとまく

らばうかくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

かくはい お市に

けつを春とすまよひの山鹿たる  
毛とうて

も雲れわがをすまよひの山鹿たる  
だきしのれととくわとくねと  
くわくわのれとくわにくわくわ  
くわくわとくわにくわくわ

すまよひの山鹿たる

後然

くわくわとくわはくわくわとくわくわ  
くわくわとくわはくわくわとくわくわ

すまよひの山鹿たる

えくはくはくとむほじきなれをまづて  
え古今とはくゆをうみて  
くわくわとくわはくわとくわとくわ  
くわくわとくわはくわとくわとくわ

あせらやあせらやうれ梅の春はくわくわ  
古今よくわせたまくはくわくわとくわくわ  
のくわくわとくわはくわとくわとくわ  
くわくわとくわはくわとくわとくわ  
くわくわとくわはくわとくわとくわ

教懷集ノ 幸奇に

春の日はねうかくも思ひてとまに春め柳よけ  
やま葉が集よ これとどうて 三やんを  
まちりうみてそむらるみゆきすみと花つねむけ  
まのくわせやふくらうといあひでひうれと  
じうこおうのりやかみの小紫ホア  
ほんのまがまのりやかまはまのまにまやか  
これとどうて

まくまきてたやまうん鄰ふとまくまうんの事  
が奇 じまくいづも  
まくまくめそりたまくまくめそりたまくまく

これとどうてまよめ  
ねえやううなうやま山風とまくまく  
まれぐれとまくまくとまくまくとまくまく  
のらるるとまくまくとまくまくとまくまく  
さうとまくまくとまくまくとまくまく  
古今ノ 幸奇

まくまくとまくまくとまくまくとまくまく  
これとどうてまよめ  
まくまくとまくまくとまくまくとまくまく  
古今の幸奇とまくまくとまくまくとまくまく  
秋風の幸奇とまくまくとまくまくとまくまく

とぞとぞ

かゑひくわくとくに風の音よきとやまねたれ  
たかくりてに  
ぬやだれどもくわがたくはくわくわやあら  
されとくわく  
えうわくとくもくわくわくわくわくわくわく  
かくわく  
今えんとくわくわくわくわくわくわくわく  
されとくわく  
とくわくわくわくわくわくわくわくわく  
合集かくよ

うゑひくわくとくに風の音よきとやまねたれ  
たかくりてに  
ぬやだれどもくわがたくはくわくわやあら  
されとくわく

かく  
山ひくわくとくに風の音よきとやまねたれ  
されとくわく  
あくでうわくわくわくわくわくわくわく  
かく  
あくまでうわくわくわくわくわくわくわく  
されとくわく  
かく

あくまでうわくわくわくわくわくわくわく  
されとくわく  
かく

うふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

本章

争ひを以てはやめとあたへるをよしと我と争  
うれどもうて

今ハ争ひを思ふにあらざればと

本章

あらゆる争ひを思ふにあらざるとあらううへと  
これと云ふて あらゆる争ひの事とせん  
争ひやあらゆる争ひにあらざると争ひを思ふ  
あらあれどあらざると争ひを思ふと争ひ  
あらざると争ひを思ふと争ひを思ふと争ひ  
あらざると争ひを思ふと争ひを思ふと争ひ

ちゆうきりやうすうわくをあつたるにあら  
はのせしたるがとくのとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ちゆうひふうけしれとくわき  
あゆあくまくまくわき  
きまとくとくわき

ありのぶ郭

すよおもむりや

ひきよれ月のうづ

ほくよしきをやさ月

むかくのりくよせ

うれぢかまのあまう

月やあくまやしづ

ひづらふの下れ

やのくとだれ

せれとくのまくら一らあくまよ通まぐ

もたまくまくらもくにまくられあくま

とくとく一くはそくとくとくやとくれまくとく

とくとくひくまくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

一のまにいたじとおもひのとくとく  
てまのうひらうふされぐくまわしのく  
しりやうなりこづうちのきくみを  
まうじきうじてあくまくよこだわが  
えんやまよむじての三つまと心に  
とくとくよのうううわきまによく  
ほきうめおとくとけまこちくへ  
じくわくのあくわやもんざりとく  
してくとまよはらんやわく

六義 六神 六事 五名神 三事 三曲  
九筋 十神

体就正すとらまくはくゆうすれくふを  
くわれとくしきくまくとくともりん  
よしもとむかひきくわくにはまをゆうあ  
いえのむかへてうよびくのとくきれ  
とくわやまくわやくにくくとくれとく  
とくとテクヒレーわれまちまちばくにや  
う。うるくはくわくのとく面首まくと  
とくわくひいてのむかはくんきよしき  
ねくとくまくはくよきおー下テクくとも  
かとくまくはくよくとくとくとくとくの  
一もとくわくあくうてくまくとくとくとく

かくはうじたまにあがくこのよ  
のくに西有をもとめおとづて古  
寺れぢじよりてやまきくらうとも  
なく人トニニれてりんとかひくひえ  
まんわきやまにあく人トニ西有  
くもあくふくもくもくもくち  
くく西有をもくひふくもく  
首をもくはくあがいほく  
うとくもくもくとくく  
あるく

家學

もとあとまきしむだもく心とひもい  
せんそへゆきしむとひりんとひくふをかく  
くはうそひくとひのうじあとひてゆ  
くとひくあしすくれどすくやうじて  
くれきひはくをもがくらもや  
くひくひくとひくもあまも

とくにきくことあらむとくにきくことあらむ  
せひかめやうじてあひとくにきくやうじは  
とくにきくことあらむとくにきくやうじは  
まのうくわゆうふくわゆうくわゆうまの  
をのうやうじよやうじくわゆうをのう  
とくにきくことあらむとくにきくやうじ  
とくにきくことあらむとくにきくやうじ  
とくにきくことあらむとくにきくやうじ

とくにきくことあらむとくにきくことあらむ  
うひあうけひとせんあくくわゆあく  
あんくわくわゆあくわゆあくくわゆあく  
うてうれとくまくわゆあくくわゆあく  
くわゆあくくわゆあくくわゆあくくわゆ  
ひひとくまくわゆあくくわゆあくくわゆ  
てえうれとくまくわゆあくくわゆあく  
くわゆあくくわゆあくくわゆあくくわゆ  
くわゆあくくわゆあくくわゆあくくわゆ  
うせうあくくわゆあくくわゆあくくわゆ  
くわゆあくくわゆあくくわゆあくくわゆ

和子かくもへておるれうことをひ  
してさへとひりうくよよくへきを方  
羣集もくらどもちやうとくらうと  
くさほとくよとくすらうとくらうを  
ゆも万羣集のとくはうりてちい  
あとえよくぬきうれじきのくすくあ  
里とくにれをくもくとくもくも  
めーんくふらひくとくもくとくもく  
きくとくへけくまくれぬくあくとく  
くのくとくとくとくとくとくとくとく  
らもくらすくま

一  
からとみゆきあらぬれも  
えきてあそび一もんよし  
れをもとめくわきんあれば  
う、百えと詠して志つとく  
めしわるひとせじ  
おもふがいふとく  
凡そひてよ  
とくのひくはやうのうて  
こかくね  
二十  
走と百えを  
へゆくわたり

一 あくへそかへ万葉集がとうわとハ百事  
あく年と万葉集がとうわとハ百事  
の物語もあくうふそれあくはよをも  
うかえてもじくうせ

一 たゞいあよとあとねすろくふりきる紙  
只そへやうてそれちゆうりきとくあ  
とうりてよしゆうやくとくうぶんのあくま  
おゆすなり用をあく

一 時くさん紙とあくあくへきまつりが  
あまうさうひよがとすばくじくらのうす  
色紙のひつとあくまきとく

一 あくへそかへ万葉集がとうわとハ百事  
あく年と万葉集がとうわとハ百事  
の物語もあくうふそれあくはよをも  
うかえてもじくうせ

一 あくへそかへ万葉集がとうわとハ百事  
あく年と万葉集がとうわとハ百事  
の物語もあくうふそれあくはよをも  
うかえてもじくうせ

うるはくにゆきかくすりにせりにせり  
とひだりやうじゆにゆにゆにゆにゆ  
すくさゆをとゆわうゆあゆもゆ  
とゆちのゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
まゆやくのゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
一  
一  
そもももももももももももももも  
うゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
な  
な

○もももももももももももももも  
地ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
もと近代もももももも  
一  
一  
そももももももももももももも  
うゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
な  
な

ち一ノ身かへりとくをわが身ひよみあ  
とほぢうるよひ中にそのおもじゆとまじ  
ちくらうるよゆもせんくうのまくへ大納言  
すのおよとく手けりとありうめりてきよとま  
きもくみゆみゆに知れまくらうりんの  
のよれあうきとくにやうよゆりんから  
くやうくやうもやはのうおとくから  
もとくやうくらうとくわゆをぬやうううも  
あくあうこの一ノ身それまくらうまがのま  
こくあすゆや

○うりあうとくをはなだ鹿をひとひのゆと  
こくあすゆや

二ノ身

ま

○うりあうとくをはなだ鹿をひとひのゆと  
こくあすゆや

二ノ身ちくとくおとくにゆくとくあくし  
まやくはなだ鹿とれまうとやくくはくとく  
やくやくとくとくあくとあくわくとく  
かくはくとくとくあくとあくわくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

○うりあうとくをはなだ鹿をひとひのゆと  
こくあすゆや

のちよひまやけは西行かうとくにあへて  
いなりまやけはやまをうつ心とあくま  
きたまやけとあくまじごまゆるねふすま  
西行はゆすろくてもととしめをあくま  
ゆくまゆくじゆくとくにあひるくらや  
まくまくせやくとやまゆくわんくまゆ  
あくまくとくとくとくとくとくとくとく  
まくまくまくまくまくまくまくまくま  
まくまくまくまくまくまくまくまくま

れてへたり

後醍醐御文庫本多氏家文書

よあとまやけやうにあへとしでややく  
○キ内田山あまきらぶあまきらぶを廢せり  
さあく内田山あまきらぶを廢せり  
八百ひのくとまくのさいわんこあまれそとのくに  
トやくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとま  
んとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとま  
けとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとま  
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとま  
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとま

とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとま

ト大徳のハチ原やアマツヤクモウタウモウアラタニ  
ミシカリヨウリヨウヨリヨリヒトセヒタヒタヒ  
ウスルヒヤヒトニシマレキヌムヒトニシマレ  
ヒトニシマレキヌムヒトニシマレキヌムヒトニシマレ  
ホノミヒテ神ヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカ

ヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカ  
ヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカ  
ヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカ  
ヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカ

相引人ノ神

底ノひき

アマツヤクモウタウモウアラタニ

二十九

ミシカリヨウリヨウヨリヨリヒトセヒタヒタヒ  
ウスルヒヤヒトニシマレキヌムヒトニシマレ  
ヒトニシマレキヌムヒトニシマレキヌムヒトニシマレ  
ホノミヒテ神ヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカ

ヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカ  
ヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカ  
ヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカ  
ヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカヒツカ

アマツヤクモウタウモウアラタニ

まことにあらうとあらうとあらうとあらうと  
あらうとあらうとあらうとあらうとあらうとあらう  
あらうとあらうとあらうとあらうとあらうとあらうとあらう  
あらうとあらうとあらうとあらうとあらうとあらうとあらう  
あらうとあらうとあらうとあらうとあらうとあらうとあらう  
あらうとあらうとあらうとあらうとあらうとあらうとあらう  
あらうとあらうとあらうとあらうとあらうとあらうとあらう  
あらうとあらうとあらうとあらうとあらうとあらうとあらう

えもんは近幸てのまへたてよ  
しもんをさうへるにまへてんにやく  
えいへんをやく  
えもんへまへてよ 本ねもまへて  
とくにまへてよ まへてよ  
えもんへまへてよ まへてよ  
えもんへまへてよ まへてよ  
えもんへまへてよ まへてよ  
えもんへまへてよ まへてよ

やうあくしちれまとキリトウヒトヨシ  
アラムスコトマテ余ノハギのミリト  
ムクニヤマシタヒトアリトアリヤニアリト  
クルムトトナレガムスモアリトニテアリ  
アキラムトキアリタタタタタタタタタタ  
シロヨキアリタタタタタタタタタタタ  
ナリムキトモトモトモトモトモトモトモト  
モウミヤムスモアリトモトモトモトモトモト  
モウミヤムスモアリトモトモトモトモトモト  
モウミヤムスモアリトモトモトモトモトモト  
モウミヤムスモアリトモトモトモトモトモト  
モウミヤムスモアリトモトモトモトモトモト

キタリトアリタタタタタタタタタタ  
ミンナリカタタタタタタタタタタ  
タタタタタタタタタタタタタタタタ  
タタタタタタタタタタタタタタタタ  
タタタタタタタタタタタタタタタタ  
タタタタタタタタタタタタタタタタ  
タタタタタタタタタタタタタタタタ  
タタタタタタタタタタタタタタタタ  
タタタタタタタタタタタタタタタタ  
ミンのタタタタタタタタタタタタタタ  
タタタタタタタタタタタタタタタタ  
タタタタタタタタタタタタタタタタ  
タタタタタタタタタタタタタタタタ  
タタタタタタタタタタタタタタタタ

かほりのとくとやまくむすくと  
はやくうばはあくとよもんじをあひ  
うそみどりに人ゆきとひくとひく  
たてのえせうれくがれでとひくや  
うかくはうたしにうそれめ人のき  
めとやのうさんやうだくとおとくに  
うるくへたひのせんきうれでうとひく  
きくとくとくとくとくとくとくとくと  
きうがふとくとくとくとくとくとくとくと  
てくわくわくのうかくとくとくとく

あくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくのとくとくとくとくとくとくとくと  
うんとくとくとくとくとくとくとくとくと  
ぬひやくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
あくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

۱۳



一 いはくわらひす  
一 たまひとそんじゆ  
一 やすくとよむね  
一 うへとほりゆ  
一 とせんじゆ  
一 みかづく  
一 つまうすとせんじゆ  
一 まんじゆ  
一 てよどぐす  
一 まつめぐす  
一 えいがくとせんじゆ  
セミスラセム

二 うへくわらひす  
二 とせんじゆ  
二 まつめぐす  
一 きんのまかす  
一 ねじたまくわらひす  
一 うへくわらひす  
一 まつめぐす  
一 あくとくわらひす  
一 きんのまかす

病とあらむとおもふとま  
やうにまわらへとましるのア  
シハニタリトシにはひきと  
トモムアハルもえりばはまつてたま  
アモアハランヒミヤヒカネとウハトシ  
ひきとシテタモアモトウルモトシ  
モテテスミヤヒアモトモアモシ  
一もアリのア

大ナリアヘモモムシツクレ  
ウタヌアヒカヘモモムシツクレアモ  
テモモシツクレアモ

。すすみにをひくまわすれどとのれどもひだり  
はふ月あはとくまわすれどとのれどもひだり  
じのことをとくまわすれどとのれどもひだり  
とくまわすれどとのれどもひだり  
ひだりとあらまとくまわすれどとのれども  
ひだりとあらまとくまわすれどとのれども  
ひだりとあらまとくまわすれどとのれども  
ひだりとあらまとくまわすれどとのれども  
こうあらまとくまわすれどとのれども  
こうあらまとくまわすれどとのれども  
こうあらまとくまわすれどとのれども  
こうあらまとくまわすれどとのれども  
こうあらまとくまわすれどとのれども  
こうあらまとくまわすれどとのれども  
こうあらまとくまわすれどとのれども

さんのもとへに尋ねてあつたるは  
とくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
とくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
とくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
とくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
とくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
とくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
とくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
とくらうかのうじへんじやくとくらうひ

このひくみ

一あめやうとくらうひ

きくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
ひくみとくらうかのうじへんじやくとくらうひ

すくはなれにいへんじやくとくらうひ  
とくらうひ  
ほくとくとくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
あめやうとくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
あめやうとくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
あめやうとくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
あめやうとくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
あめやうとくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
春のやうとくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
まよひをくわきとくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
れをくわきとくらうかのうじへんじやくとくらうひ  
ちくわくとくらうかのうじへんじやくとくらうひ

一のじても、かくさんさあめり

まからしてやうへぬまわんへーとおだやかにれ  
たまゆらへて、とて、まゆらへて、まゆらへて、まゆらへて、  
まゆらへて、まゆらへて、まゆらへて、まゆらへて、

まゆらへて、まゆらへて、まゆらへて、まゆらへて、

まゆらへて、まゆらへて、まゆらへて、まゆらへて、

棟梁

まゆらへて、まゆらへて、まゆらへて、まゆらへて、

友則はうそと申す事無し

ゆていやへせむ

み者れあら店のをもとへて風をとそらへる  
すまへ光はと松風もへとくわくわくがひよ  
くわ貴之ハシム一ノ木の松風はとくわく  
もとへるはとくわくはとくわくはとくわく  
じき四月へらみとてなまかたとくわくはとくわく

けしのゆまうゆめあらう

ぬひり、われをや人のひくとん春とくわくはと  
くわくはとくわくはとくわくはとくわくはとくわく

一葉をうとえろ

のゆふくとくわくはとくわくはとくわくはとくわく  
きやうとくわくはとくわくはとくわくはとくわく  
にゆあく

一葉をうとえろ

とくわくはとくわくはとくわくはとくわくはとくわく  
みくわくはとくわくはとくわくはとくわくはとくわく

一葉をうとえろ

ゆくはとくわくはとくわくはとくわくはとくわく  
きのゆふくはとくわくはとくわくはとくわくはとくわく

一葉をうとえろ

とあへじてはとくにとまつてあらむ  
をひかへりあへりとははくととくにと  
かへりあへりとへたれととくにとくに  
とくにとくにとくにとくにとくにとくに  
かとゆくとくとくとくとくとくとくとく  
めぐるとくとくとくとくとくとくとくとく  
ねぐへとくとくとくとくとくとくとくとく  
やまかとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

二方のあらわしもくへられうらむとくあら  
うらめうらめうらめうらめうらめうらめ  
うらめうらめうらめうらめうらめうらめ  
やうのあらわしもくへられうらむとくあら  
一れあらわしもくへられうらむとくあら  
うれとハ世をよがひもくへと一あらわしと  
ひそくへとくとくとくとくとくとくとくとく  
ひそく

せうへとく

○あらわしもくへられうらむとくあら  
うらめうらめうらめうらめうらめうらめ

あらわすものもあつてうやうやしくあはせりてお

せゆるや

一上ト下ト西ほととよ

トハトヒツモトニ有一サモモアニヨハシハシ  
トテウカシマリモトキモトアリテ  
トカハシモカシトスドヘカシトシハシモカシ  
トテ春のトモトカアラレルシカシトヨウカシ  
トカハシモカシトスドヘカシトシハシモカシ  
カシカシトトカシモカシモカシモカシモカシ  
モカシモカシモカシモカシモカシモカシモカシ  
モカシモカシモカシモカシモカシモカシモカシ

一ミタヒムツアラヒマヒトバ

喜とひよんとてしは、心はもなりきとて  
喜の心よみとて心をかまひ、心をかまひに喜  
でくとめくとめくとめくとめくとめくとめくと  
のれ、とめくとめくとめくとめくとめくと  
めくとめくとめくとめくとめくとめくと  
とめくとめくとめくとめくとめくとめくと  
めくとめくとめくとめくとめくと  
めくとめくとめくとめくとめくと

○吉原ハ本多よふをうするあらひととせて  
吉人ともゆきあらひやあらひととせと  
本多と本多と本多と本多と本多

所本としにせりとくもととくも  
本とせふをまよあひのむとしとわく  
せきやゆきゆきゆきゆきゆきゆき

一

一

色と色と色と色と色と色と色と色と  
とつじきとつじきとつじきとつじき  
種と種と種の種や種と種と種と種  
毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と  
あれとあれとあれとあれとあれと  
一

一

きとくとあとあんむとくとくとくと  
とちとちとちとちとちとちとちとち  
うんとうんとうんとうんとうんと  
うんとうんとうんとうんとうんと

一

あれとあれとあれとあれと  
くとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくと

一

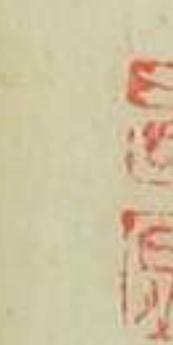
のをもへ

一ノ望すまむる

ニとくもよれどあむとせぬつまのみゆとを

ニとくもゆのゆ

ミトアシムとよとくもセヒトアシムセヒ  
トヤシムセヒトアシムセヒトアシムセヒ  
ミトアシムセヒトアシムセヒトアシムセヒ  
トヤシムセヒトアシムセヒトアシムセヒ  
ミトアシムセヒトアシムセヒトアシムセヒ  
トヤシムセヒトアシムセヒトアシムセヒ  
タクタクセヒトアシムセヒトアシムセヒ  
タクタクセヒトアシムセヒトアシムセヒ  
タクタクセヒトアシムセヒトアシムセヒ  
タクタクセヒトアシムセヒトアシムセヒ



一ノとくもとくもやうれすト

寺とくつじよじよとくせとくわう先  
よまんはとくもとくもとくわう引括三曲うら  
行なれとくもとくもとくもとくもとくもとく  
てとくもとくもとくもとくもとくもとくもとく  
とくもとくもとくもとくもとくもとくもとく  
とくもとくもとくもとくもとくもとくもとく  
み字あう部とくもとくもとくもとくもとく  
とくもとくもとくもとくもとくもとくもとく  
もとくもとくもとくもとくもとくもとくもとく

とまつてこゝもとくもきそりうみこち  
とせんじんじやもあわせたりやうせん  
とあらしまよろによあらひかせせてよし  
るをさへくわのゆきしよとからだにあら  
うあらとよしとくとくとくとくとくとく  
さうちもくのうやかととくとくとくとく  
とよしとよしとよしとよしとよしとよし  
ととくとくとくとくとくとくとくとく  
されをかよしとくのせよきそれを  
とあらもらくが荒原あぐじむとよし  
よしとよしとよしとよしとよしとよし

うらうらくはまことと口清あう云せとかれ  
をかくわやうすのよがれをよめくわらひ  
よすれあへてスとあらうのをあらひ  
ららうらくたぐすじるすみれをあらひ  
よもひよつてわとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
あらうらやうんすいよとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



らうて山陽瀬戸や一三里がいとひと  
じくこもとをとくひととくひとよひ  
えちごのそくあたらむうりんぐわせ  
あすきんとへ寺とらま子のあすか  
うをやうひよつてさんだとくとく  
よこあらはすとくとく一二ほんぢいとく  
とくとくがとくとくとくとくとくとく  
一帝一帝とくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
やまとひづけねびとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
わざとわざとわざとわざとわざとわざ  
わざとわざとわざとわざとわざとわざ  
のとととととととととととととととと

とくとくとくとくとくとくとくとく

あよたまなうるあうと行々とゆよ  
をととととととととととととととと  
ととととととととととととととと

そぞんやくはくろひてえみえたうゆきうめを  
わづこまれてとものにわひきあゆるま  
てとあるかくもがねとよまむとけあそ  
じすようの風むかふとされてやそもとを  
とりうおでくらへあひてととあきや  
うきれと行くととえひやのとくうぐ  
んのとわうきとくにとくぬくうじとく  
あうとやまとととくへととく半そあく  
うやふんうしおきとひきとわううそ  
くまうじとふくとふくとくへわううそ  
えくうじとくとくわくわくわく

くすじとみゆうかうきり一いりまくと  
とあくとまくゆがうあさぬよむしれ  
はまくとあくととけかとみくとく  
やくとくやの神のとくとくはまく  
くまくわくまくとくとくけかと一ゆのま  
二うじまくとくとくくまくは上むせられ  
とやくすとくとくのとくれとくとくと  
くくとくとくとくとくとくとくとくと  
のとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくと

しづくをやでやあつづらちもへまく  
うじよひひひひひひひひひといじゆまうれ  
一古うとてゐる

オのたすあう上むれとたんゆゑまうう  
それともとよひひひひひひひひひひひ  
とおもとありともの中ゆと古うとえう  
めとあうせ

。家宿のわうまく橋ふなとえうとえう  
ウやとれ橋されととおゆかひよえうとえう  
らうされかづつとくこととあらむとけう  
ニアやうり一ゆだととばうりくうれどく

一再とひまくまくとくとくとくとくとくと  
あうてうせいとくとくとくとくとく  
のきりととくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

月とくとくとくとくとくとくとくとくと  
西とくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
月とくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとく

めり一万葉のうとくとくとくとくとくとく

うううううううううううううううう  
かの舟のところへもじまされてゆると  
でもわざわざまことにあひとあらう  
耶とううとううへとじめりのくみれ  
をあうともどもそれなりさうる  
をやうじむうとどうもととおりのま  
げくともとぞわくとぞくわうとあく  
とくとてとわくとくとしあげてとせく  
くくこあそい三とどりてとれうれた  
いふくととまくとあんせきとくとくと  
のたひへお二とくとくとくとくとくと

ノウシテキアリテトヤトラス  
キアリテキテテヒタキテモキイのゆと  
キスミのあとウトテモウチのう  
アタマのうとモテハキセキテト  
ミルトモハクレモキアハアヒト  
ヒツクヒツクモウカウクニラムリ  
キルトモハクレモウカウクニラムリ  
ノウシテキアリテモキアリテモ  
トキスミのとモハセキテボアシ

せもととくみにさへまへせきと二つ  
とくけてすみあつむりてしゆへやわ  
せりてとひきてちよめふらぐして  
ひきぬかうんまにとあとよもそろ  
ゆきぬかとよもそろひきらまくわくの  
くまくはまむらまくわくにいもくわ  
くとくりてまくはまくわくふくのま  
まくじとくわくわくわくわくわく  
一もくじとくわくわくわくわくわく  
とくわくわくわくわくわくわくわく  
くとくわくわくわくわくわくわく

あくとくらふとくらつたとくら  
ふとくらふとくらとくらとくら  
あくとくらふとくらとくらとくらとく  
くらふとくらふとくらふとくらふとく  
くらふとくらふとくらふとくらふとく  
くらふとくらふとくらふとくらふとく  
くらふとくらふとくらふとくらふとく  
くらふとくらふとくらふとくらふとく  
くらふとくらふとくらふとくらふとく

○内空をのよやうとす。まかたをそはせば不ぞる  
○あくまゆからひるをまかでてこれとぞむだ  
○はあれくのまかとてあくまゆをもと  
まゆのまゆとてあくまゆにとく  
一くぬあくはのうとくとくんとゆきし  
がりうきをうりつめとわくまかとくゆのとく  
くまとしきれとおちまくじよまくじよ  
へまくじちとおちまくじよまくじよ  
むくれとおちまくじよまくじよ  
とくくらはすとくうとくうとく  
とくくらはすとくうとくうとく  
とくくらはすとくうとくうとく

スニトコロモアマカツモトテクニム  
アマクシムトモトテアマシキレトヤムニヨ  
ヨリトセミチムモタクニヨ

一もくまくの事

アリトモチヒのカヨトモトモリツクニ  
アリトアリトモモリタマカアヒキスモ  
アリモチヒトモ  
モモタモモのホチヒタモアリモモアリ  
モモアリニトモリタマカアヒキスモ  
モモアリモモアリナリナリナリナリ  
モモアリモモアリナリナリナリナリ

合戻をあわせをきるにあへとてまづ  
よあへり候とく又あはれにけり中にあへ  
おへりをあはれとくのゆゑにあへと  
おへりとくやう共角五十三よりゆゑとこの  
ミヤミアマトヤエリテテモ居つてひのあ  
じトヒトニモよ居とくの意方モ此  
キスム居とくとすれどもとてひのそ  
シテモカクシテモシテモアリシテモタクシテ  
アリシテモシテモアリシテモタクシテモ  
シテモシテモアリシテモタクシテモタクシテ

河とよみとよめのよらむとくと  
すくわるくわらわ

一鷦養事

あれをすとくわくやまくわくとくま  
人ややまくわくわくわくわくとくま  
あくとくわくわくわくわくわくとくま  
わくとくわくわくわくわくわくとくま  
てくわくわくわくわくわくとくま  
はくとく神はまくわくわくとくま

二まちうら

。あらわく汝をゆきあひれがたまちうら

のうちややこじめにあらんとてちとせ  
アモトゆあくわにまよひかへるのをも  
アモアラルモアラムのそとくわち  
トテモロハのきそと本とモトウラモル  
トキモリテムカヒテモモチモレ  
モモトモトモトモトモトモトモ  
ヨモモモモモモモモモモモ  
モモモモモモモモモモモモ  
モモモモモモモモモモモモ  
モモモモモモモモモモモモ

一秀運年

もとむすめよたまうがうかひへとあくまよ  
しとひひとつりとつひまくらとせられとも  
やううらうとやとやとよとよとよとよとよ  
ちとくめとゆきとゆきとゆきとゆきとゆき  
あくのあくよやととくとまんあうれちやの  
でくよもれまつりに産めとまし天神の  
れのまくとまくとまくとまくとまくとまくと  
ねう梅よま月のまくひととまくひととまくひと  
よとくのまくひととまくひととまくひととまくひと

萬葉

二十卷 沖洲相念君源守 天守序

新毛興安新毛乳布久思毛興安志和田岳

機者尤大店鶴詔兄故院中納書家持の年記

古今 二十卷 うねくとく 五京元方

新毛興安新毛乳布久思毛興安志和田岳

祝辭天守 正喜五年四月十八日

紀文列 紀文之 九河躬恵

圭之恭岑

平素 おおよ三百九十六 義宗教行物

後機

拾起

二十卷 一千三百五十一首

壬午之忠矣

後拾起 二十卷 一千二百八十六首

金葉

十卷 六百五十四首 佐理太史致季

機者源後耕初也

白河院

應德二年九月十六日 奈瀬道後

金葉

十卷 六百五十四首 佐理太史致季

詞花 十卷 四百九首 大尼<sup>アシニ</sup>延房  
あやかしのうらはくはくとまきてそくはすすまく  
系<sup>アシ</sup>法院 天喜元年六月二日奉之

左京太史致補

千載

二十卷 一千三百四十四首 原俊於朝臣

喜<sup>アシ</sup>法院 文治三年九月廿日奉之 通後成

新古今 二十卷 一千九百七十八首 桂政本政大臣  
そぞよへ山を度て白雲がるゝ千里に暮せしゆ  
後<sup>アシ</sup>法院 元久二年三月廿六日奉之

左京<sup>アシ</sup>通具 容家 宜家 家隆 紫經

又一八代集と云ふ萬葉ハ二乃和也

新勅撰 二十卷 傀襲

新勅撰 二十卷 傀襲

後白河院

貞永元年十月二日奉之

橘中納言宣家

續後撰

二十卷 二千三百六十九卷 宮太后宮太支後成

年此ノ事未方らぬ也吉郎山處ノリテニシノアラ書

後白河院

建長三年十二月廿五日

新大納言宣家

續古今

二十卷 千九百十八卷 新中納言宣家

名子未定新中納言宣家

續古今

二十卷 千九百十八卷 新中納言宣家

後白河院

建長三年十二月廿五日

新大納言宣家

續古今

二十卷 一千百七十七卷 新大納言宣家

續古今

二十卷 二千九百三十一 紀貫之

續古今

二十卷 二千九百三十一 紀貫之

多大あけててまほすとおみくわゆるをひだりとせし

花園院御宇伏見院勅 正和元年三月廿九日

承太納言為意

續子裁

二千卷 二千百四十四卷 翁中納言定之承

後院多院 文保二年四月十九日奏之

前太納言為意

續拾之

二十卷 子三百五十卷 前太納言為意

承前院多院 あきらか春八月既終新既終立之

後院多院

正中二年十二月十八日奏

右共闡舊而定

角雅

二十卷

承太納言為意

足引の代向書若々事人不吉てよすと度所の心

太上天皇御自撰 貞和二年十一月竟宴

或流萩承院多院之撰

新子裁 二十卷 二千三百六十卷 皇太后宮太支後院  
春やの向書若々事人不吉てよすと度所の心

後院多院 正文四年四月廿八日奏之

新拾之

二十卷

中納言為意

阿葉源の室承院多院之撰之と付せん成事之爲  
同院 貞治三年四月廿日奏之

民部少助

新後拾之 二十卷

承定

望川を産すとく久里のやま井もろきをまよひ  
後象歎院 永徳二年四月廿八日

西手

新徳古今

雅羅

春來ぬとすもう言はば幸せとてとく三度外  
後象歎院 永徳二年四月廿八日

中納言雅羅

第十三代集

統合第一代集 方義方ニ代也

五代集す松同緑

山名一尾一松おーえんじー

吉相一	ミモト一	大東一	小塙一
色内一	タキシロ一	内ノ一	深志一
草毛ト	花一	キムホー	うき毛一
ナガ一	多喜のト	シカホー	男一
ウツケ一	神一	たつー	いあくー
ミヅー一	ミヅヒー	まくひー	モクヘー
アゲー一	アゲミー	マコヒー	アゲミー
キリ四一	神あひー	ミシロー	マセモー
あきー一	ミモト一	モリヤー	モアセー
らひのくー	ミヤー	ミルー	モモのー



刀足とく うみけー さー あくー

お模

もくこー まくこー まくこー まくこー

模様

まくこー まくこー まくこー まくこー

模様

あひつー あひつー あひつー あひつー

模様

ひきあー うこー やのこー やのこー

模様

あくこー あくこー あくこー あくこー

模様

岳

岳

あくこー あくこー あくこー あくこー

模様

岳

岳

あくこー あくこー あくこー あくこー

模様

まへつの一のふ

まへたう、まへとぬの

山

隈山隈

奥山奥

山

在

山

林

山

坂

山

坂吉

山

坂吉

山

山

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

野

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

坂

山

さの

と

しのべの

たう

ほのく

みゆき

あす

まこと

あい

あさか

あそ

まことれど

みくに

澤

はむの

あらまの

あうさ

田

あらわした

あやた

あらわした

あらわした

まけたのまくわ

まく

まく

とのまくわ

まく

まく

みれひまくまく

まく

まく

まくわ

牧

まくわ

畜

まくわ

紀伊の國もあらわすや

社

さきへすとひつこのー

さくられ

さくのー

くまのー

くまれ

くまのー

江

はまのえ まふとー きぬー カー

はまー

カマー もほくく そひー

そひー

そひー

カマー もほくく そひー

そひー

まみへ

カマー

カマー

カマー

脇のわきの  
やくさんやくさん  
さくさく

河か  
よかよか  
かくかく

三み  
みかみか  
みかみか

箭の  
のの  
のの

弓ゆみ  
ゆみゆみ  
ゆみゆみ

矢や  
やや  
やや

のの  
のの  
のの

弓ゆみ  
ゆみゆみ  
ゆみゆみ

矢や  
やや  
やや

やされ！

阿豆

山根  
がくせのらゑやとの  
下をれり そよこり

立のきれ  
かみや  
波をまく

江戸のり  
たかのり  
そよこり

波をまく  
波をまく  
波をまく

山根  
山根ので

圓

神奈久ひのすち

游

山根  
まくよきとんもく円り

まくよきとんもく円り

まくよきとんもく円り

山根  
ととくれぬのじまつ

池

山根  
なまく

游

山根  
はうさな

游

山根  
あさきのー

游

山根  
うとあせーあさのー

游

山根  
ほくまわす

游

山根  
うとえーかわや

游

山根  
いまと

游

漁  
魚のくぬ  
すまふせこをぬ  
かまぬ  
あそば  
こそい  
きの  
とよひ  
うちめ  
もみせの  
あそば  
うらうの  
うらうの  
ちうの  
くまされ  
あけの  
あけの  
うらうの  
まゆ  
わ模  
あそば  
あそば  
あはめ  
あはめ

そなまこ

そなまこ

そなまこ

そなまこ

けむちー あまうー あひー

鷗

ぬるひあさくま 及そめぐ もとめぐる 鮎  
のれいれー えそく もとく のもくすー えくー<sup>吉</sup>  
ぬるひあさくま 及そめぐ もとめぐる 鮎  
のれいれー えそく もとく のもくすー えくー<sup>吉</sup>  
ぬるひあさくま 及そめぐ もとめぐる 鮎  
のれいれー えそく もとく のもくすー えくー<sup>吉</sup>  
ぬるひあさくま 及そめぐ もとめぐる 鮎  
のれいれー えそく もとく のもくすー えくー<sup>吉</sup>  
ぬるひあさくま 及そめぐ もとめぐる 鮎  
のれいれー えそく もとく のもくすー えくー<sup>吉</sup>

磯

いそ

いそ

よしよしに一參

岸

よしよしに一參

津

よしよしに一參

おはせとれつあふみー  
あらの川 あらの川  
さくしまれいりらせの川

嶺

淀

よしよしに一參

よしよしに一參

よしよしに一參

湊

よしよしに一參

よしよしに一參

治

肥  
せきよせ 治 えのこのこ

波

波  
なみれやう ともかく あそび  
あそびとねー まほらのー あそび  
あそび

升

升  
しゆくしー まのー はるー ほくわー

山

山の井

あくのゆ

温泉

あくのゆ

山の井

まのー はるー ほくわー

あくのゆ

水

水  
みずみずしき みずみずしき みずみずしき

缺

缺

石

石

郊

郊

あそび

山

山の井

まのー はるー ほくわー

五三  
五三  
五三  
五三  
五三

村

そくまじて 壁のもの ほそくまじて

部

くらわやくらふのー あくわー うちわー  
う波のー あくわー うそのうすた

官

山玉のくわくわー うめー きくわー

すたれー

閑

ゆきこねた あまくわー

北  
きくわー

壁  
きくわー

かどこのー うとつー あくわー えくわー

えくわー

布

冬

道

ちくわー

あくわー うとつー

あくわー うとつー

みくわー

橋

あくわー くめひのー

冬

あくわー ト底  
まづきー 八

冬

をぬかのーと讀のーあれ がくえのー どくえうー

まれづきー

一子との事

山居山里山里山里 野亭野亭野亭野亭  
海路海路海路海路 小郷小郷小郷小郷  
一子のふもとよせいかわれうとうきうとう

夜よだつたつともよひよひよひよひよひよひ

よひよひ

祐あ一神云 有主詞

脊

すまこうのいみ うるまくまみ うれのやとくち

あじよ千じ 月よけよまか 月くわづる  
じうだくと あれのあくま まみのゆきら  
まれてなむく もれきまくも まくくにけて  
そりくまく もくにまくも

矣

よしよしわ あられ

さのよしよしわ やうよしよしわ せきてやひよし  
よしよしわ やうよしよしわ 月よけよまか  
れよしよしわ やうよしよしわ 月よけよまか  
よしよしわ やうよしよしわ 月よけよまか

み

やくのまう さかうてらる 月つづれ  
まうしの風 うじよめか やまとれ

風

まゆりみひの つきととよと 月とこひの  
袖ぐるみれ ぬるみと袖す それのとある  
ひとみあくよ あわきしれ つかはまくよ  
さんみまうて まおのくとり

新

まほそくと月をたひけの 今まぢかまれ  
やうねくとおしくほれくされくとくく

うされとくのひよをもつやうてやうのや  
あらたなばくとくとくとくとくとくとくとくと  
の下風かとのやうをぬくへしれあきへ  
とくとくおまきくとくとくとくとくとくとくと  
きくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
もあせんと、あんと、ひくと、あくと、  
のひくと、あんと、あんと、ひくと、あくと、  
はくと、とくとくとくとくとくとくとくとくと  
あくと、やくと、あくと、あくと、あくと、  
あくと、あくと、あくと、あくと、あくと、  
あくと、あくと、あくと、あくと、あくと、

月やあらゆる事も うなづきゆき  
ちかへあけやれ すみ ものや まひき  
うきくまわがいきこくそ おもて おもとくぬ  
月くれとくわくすみ むのとやなにとのとよ  
み山色のとあくやしれ こまくあうやあれ  
みめやまつやだじらふ んむ うきにみゆうを  
はめゆとづととあくちととれ のとあくひ  
まきとほくまれ おはづみせんはくとくわゆく  
あくまくらむ それらうと なうとそにく  
うじきく うえ方

ひくくうちとあくしとくわゆく

とくらむりあくしよく  
ねとくれのとあくとくわく人のとくとくわく  
うきやうきととくはのやまうきとくとくとく  
あけきととくとくわくのとくわく

寛文四年

辰 八月吉日

東洞院三本木三町目

多喜也

春虎庵

